

三田・北神地域の急性期医療の確保に 関する基本方針

令和4年6月
三田市

目次

1. はじめに.....	1
2. 基本方針の位置づけ.....	2
3. 三田・北神地域の現状と課題.....	3
4. 三田市民病院の現状と課題.....	4
5. 三田・北神地域の急性期医療確保方策.....	7
6. 役割分担.....	7
7. 新三田市民病院の基本的な考え方.....	7
8. 新三田市民病院の整備場所.....	8
9. 新三田市民病院の整備費・運営費の負担.....	8
10. 新三田市民病院までの交通アクセス.....	9
11. 現三田市民病院の跡地活用.....	9
12. 今後のスケジュール.....	9
13. 新三田市民病院開院までの課題.....	9

1. はじめに

令和3年6月に三田市と神戸市で「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」を共同設置し、5回にわたって専門的立場、医療現場や地元利用者の立場から、三田・北神地域の急性期医療を将来的にも維持・充実するための方策を検討いただきました。その結果、三田・北神地域の急性期医療確保方策については、「三田市民病院と済生会兵庫県病院との再編統合が最も望ましい。」「その際には、現在の利用者にとって交通アクセスの利便性に変化が生じるため、両病院の中間地点が望ましい。」との報告をいただきました。

また、昨年度は、広報さんだを積極的に活用して、北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会の検討状況等について情報発信し、また、市民病院に関する市民意見交換会（市内9地区計25回）や市政出前講座（12回）を開催して市民のみなさんのご意見をお聴きしてまいりました。

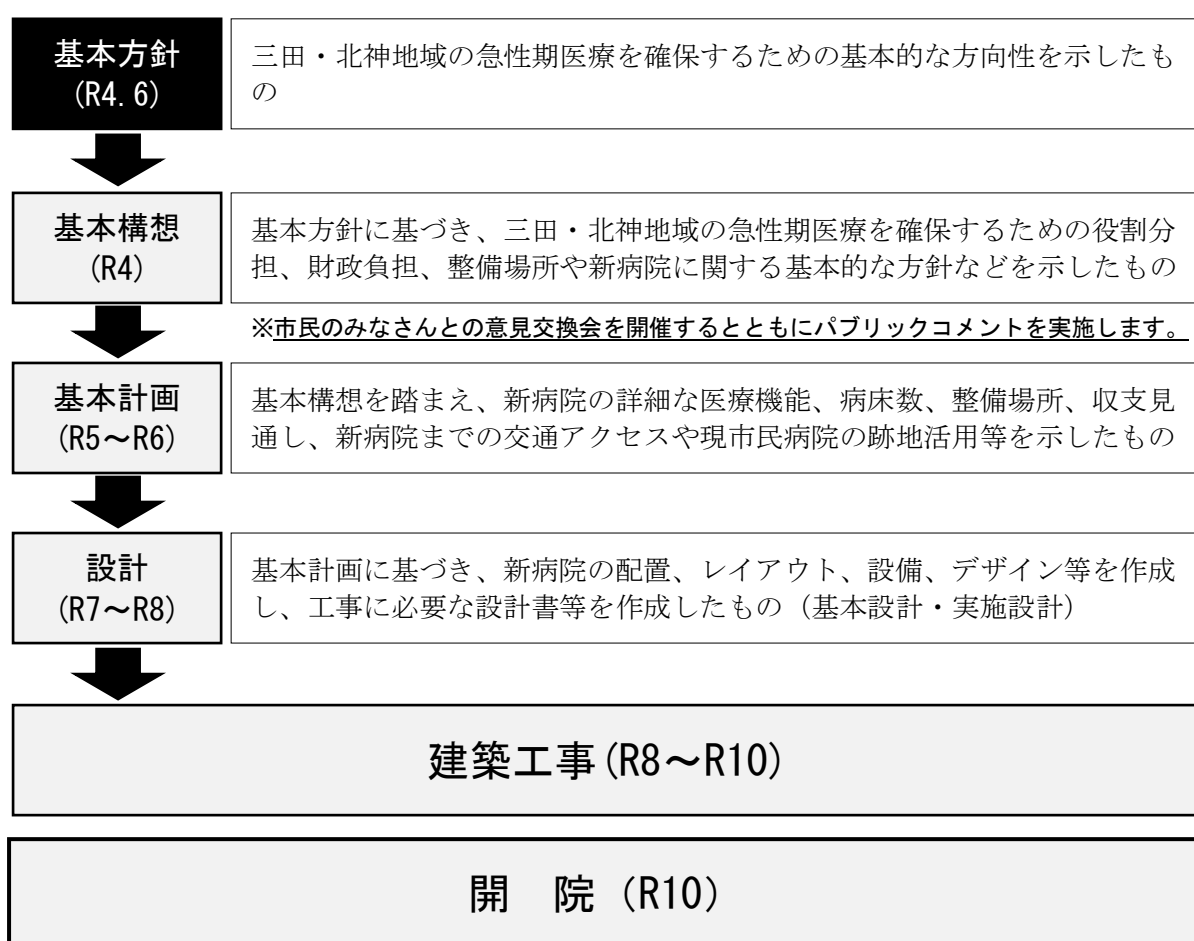
三田市は、当該報告書の内容や市民意見交換会及び市政出前講座における市民のみなさんのご意見を参考に、神戸市及び済生会兵庫県病院と協議を行った結果、三田市民病院と済生会兵庫県病院が再編統合して新病院を整備することにより、三田・北神地域の急性期医療の充実を目指すこととしました。

本基本方針は、その協議結果を踏まえて、本市の基本的な方向性を整理し策定したものです。

2. 基本方針の位置づけ

本基本方針は、三田・北神地域の急性期医療を確保するための基本的な方向性を示したものです。今後、本基本方針に基づき、三田・北神地域の急性期医療の確保に関する基本構想を策定する際には、市民のみなさんとの意見交換会を開催するとともにパブリックコメントを実施します。

基本構想策定後には、市議会及び市民の理解のもとに、基本計画として施設整備計画や運営計画等を検討し、基本設計・実施設計及び建設工事を経て、令和10年度の開院を目指し、計画的に事業を進めていきます。

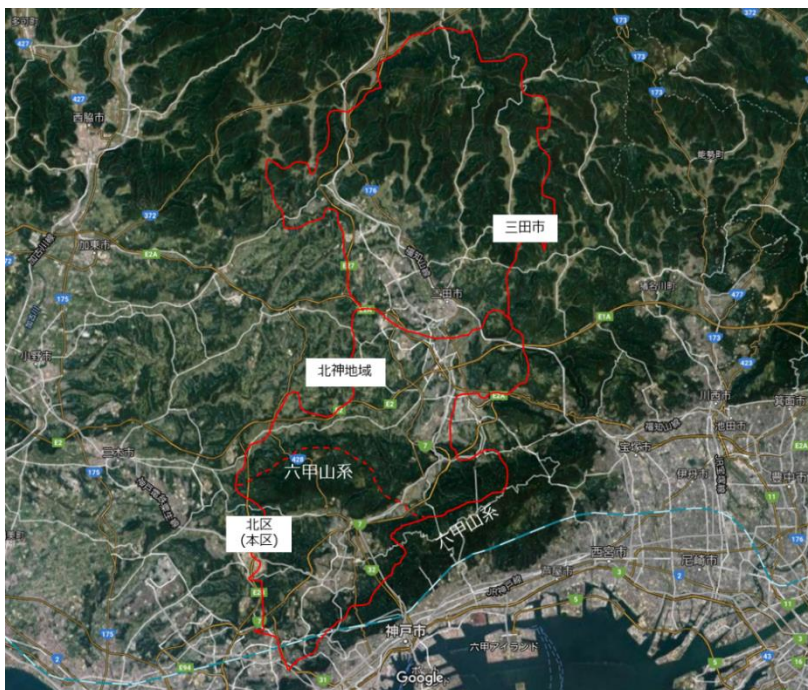


3. 三田・北神地域の現状と課題

(1) 三田・北神地域のつながり

三田市と北神地域は、六甲山系以北の一体的な盆地でつながっており、歴史的なつながりや神戸電鉄沿線を中心とした生活圏としてのつながりが強い地域です。

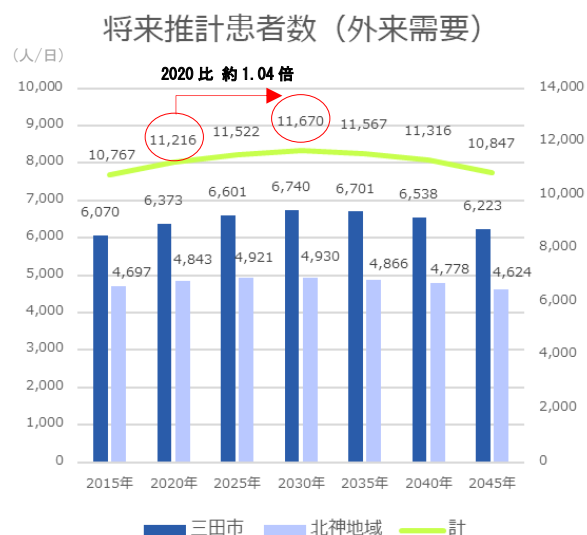
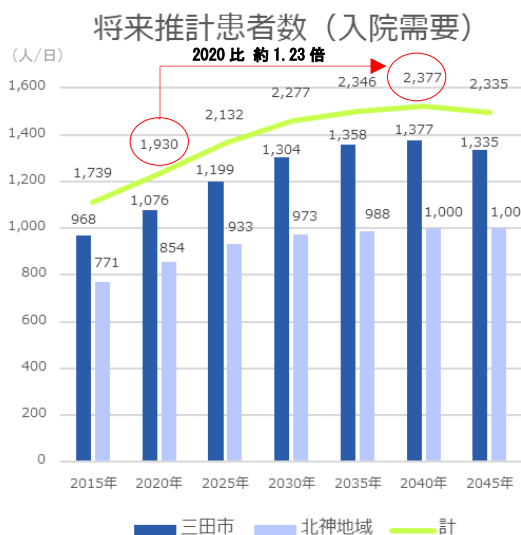
そのため、両地域の急性期医療を担っている三田市民病院と済生会兵庫県病院は、臨床研修病院としての連携、災害発生時における相互医療応援に関する連携や医師確保のための連携を行ってきました。



出所：第2回北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会資料（Google アース）

(2) 三田・北神地域の将来推計患者数

両地域の入院需要は2040年まで急激に増加し、2020年から2040年のピークにかけて約1.23倍となります。外来需要は2030年まで緩やかに増加し、2020年から2030年のピークにかけて約1.04倍となります。



出所：第2回北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会資料

4. 三田市民病院の現状と課題

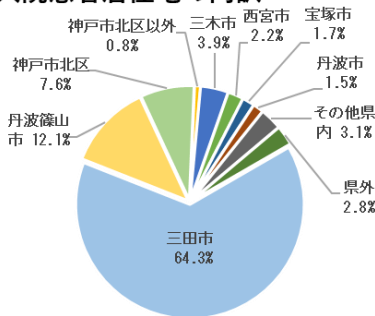
(1) 概要

名称	三田市民病院
住所	三田市けやき台3丁目1番地1
病床数	300床(うちHCU7床)
診療科目・部門	内科、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、眼科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、形成外科、産婦人科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科 (19診療科)
職員数	459名(R4.4.1現在)
基本理念	良質な高度医療で、地域に安心をもたらします
基本方針	①「ハイレベルのチーム医療で患者さんを支えます」 ②「救急医療を充実させ、中核病院の役割を果たします」 ③「急性期医療を担い、地域連携を推進します」 ④「経営基盤を強化し、病院機能を向上させていきます」 ⑤「高い技術と倫理観をもった医療人を育成します」

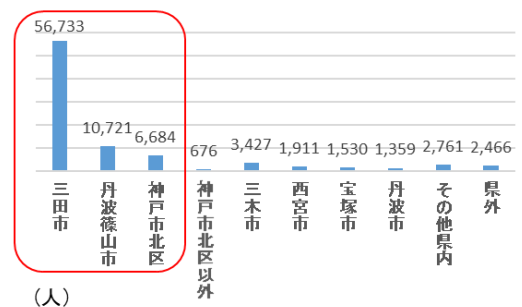
(2) 患者居住地(令和元年度)

入院患者の約64%が三田市、約12%が丹波篠山市、約8%が神戸市北区となっており、外来患者の約72%が三田市、約9%が丹波篠山市、約8%が神戸市北区となっています。

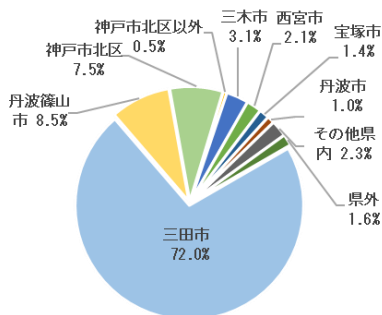
①入院患者居住地の内訳



②市域別入院患者数



③外来患者居住地の内訳



④市域別外来患者数



(3) 診療状況・経営指標・職員数の推移

項目			H29	H30	R1	R2	R3
診療 状況	延入院患者数	人	91,784	89,466	88,268	78,014	77,863
	病床利用率	%	83.8	81.7	80.4	71.2	71.1
	平均在院日数	日	10.1	9.8	9.8	9.5	9.4
	延外来患者数	人	156,586	165,031	164,613	153,330	159,764
	救急患者延数	人	6,660	6,476	6,455	5,080	4,856
	救急車搬送受入件数	件	3,389	3,533	3,412	3,070	3,329
	救急車応需率	%	93.3	93.2	92.7	92.3	88.0
	手術件数	件	3,107	3,070	2,975	2,708	2,825
	分娩件数	件	345	352	274	286	263
項目			H28	H29	H30	R1	R2
経営 指標	経常収支	億円	△0.6	0.8	0.5	△0.6	12.4
	入院単価	円	59,117	59,080	60,229	59,529	65,620
	外来単価	円	11,090	11,553	11,364	11,722	12,070
項目			H30	R1	R2	R3	R4
職員 数	医師数	人	75	74	71	76	74
	職員数(医師以外)	人	382	377	384	379	385

(4) 施設の状況

- ・病院は24時間体制で稼働しており、他の公共施設に比べ施設の老朽化の進行が早い傾向にあります。
- ・空調設備、給水・給湯設備については、経年劣化による老朽化が進行しており必要最小限の修繕により対応を行っています。
- ・電気設備や防災設備は、災害等により医療行為に支障をきたすため必要な更新を行っています。

(5) 病院の課題

ア. 施設設備の老朽化

- ・建物は築27年が経過しています。
- ・今後も安定して急性期医療を継続して提供していくためには、継続的な部分改修に加え、主要構造部分の保護・各種設備の大規模改修(大規模投資)が不可欠ですが、現状の診療体制を維持しつつの改修では一時凌ぎでしかなく、10数年後には改築の検討が必要となります。

イ. 医師確保の課題

(i) 新専門医制度への対応

専門医を目指す若手医師の研修は、数多くの症例、経験豊富な指導医からの指導が見込める一定以上の機能・規模を有する基幹病院以外では不可能であり、現在の医療機能のままで若手医師を確保することは困難です。

(ii) 医師の働き方改革への対応

「働き方改革関連法案」により、今後全ての勤務医に対して労働時間の短縮に向けた取組（当直回数の抑制、当直翌日の休暇による診療体制の縮小など）を進める必要があります。この取り組みを推進し、救急医療を含む急性期医療を維持するためには、医師の増員が不可欠ですが、魅力のある病院でなければ若手医師から選ばれず、増員が困難となり、結果として急性期医療を担えなくなります。

5. 三田・北神地域の急性期医療確保方策

三田・北神地域の急性期医療を確保・充実させるために、三田市民病院と済生会兵庫県病院との再編統合により、新三田市民病院を整備します。

6. 役割分担

(1) 三田市

新三田市民病院の設置者

(2) 済生会兵庫県病院

新三田市民病院の運営者

(三田市から社会福祉法人^{恩賜}財団済生会支部兵庫県済生会への指定管理を予定)

(3) 神戸市

北神地域の急性期医療を確保するための財政支援

7. 新三田市民病院の基本的な考え方

(1) 新三田市民病院の担うべき役割・機能

新三田市民病院は、三田・北神地域の高齢化に伴う医療需要の増加を見据え、地域の医療機関との連携・役割分担を図りつつ、必要な医療を提供し、診療機能を向上させます。

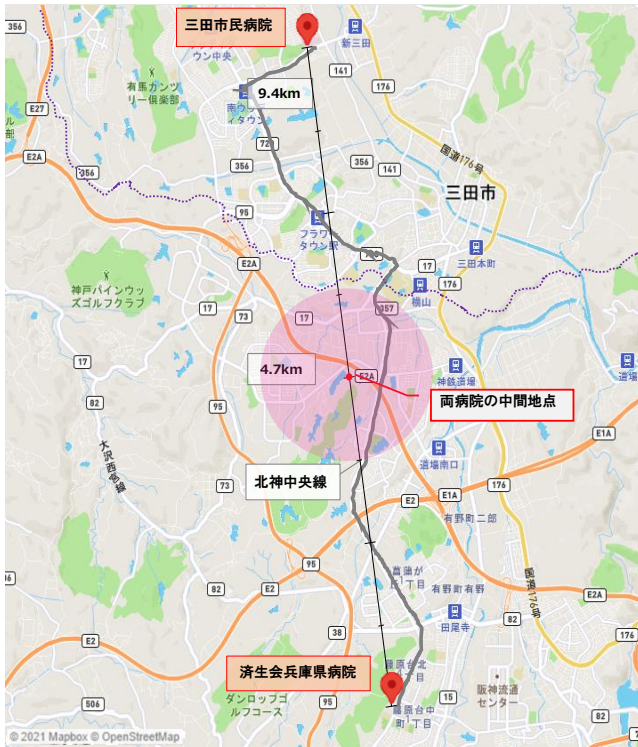
(2) 病床規模

新三田市民病院の病床数は、400～450床とします。

三田市民病院と済生会兵庫県病院が、現在の医療機能を維持した場合に対応すべき推計入院患者数に新三田市民病院における医療機能向上に伴う患者数の増加や医療技術の進歩に伴う入院日数短期化の影響等を加味し、400～450床必要であると考えます。

8. 新三田市民病院の整備場所

三田市民病院と済生会兵庫県病院の中間地点（神戸市域）付近



9. 新三田市民病院の整備費・運営費の負担

(1) 整備費

①三田市

新三田市民病院の設置者として、整備費の2/3（約67%）を負担します。ただし、公立病院の再編・ネットワーク化に関する病院事業債（特別分）の措置により、整備費の約40%について普通交付税措置予定です。

②社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部兵庫県済生会

新三田市民病院の運営者として、整備費の1/3を負担します。

③神戸市

新三田市民病院の用地を確保します。また、三田市の実質負担額のうち、救急医療及び周産期医療に係る病床分を対象に、両病院の入院患者総数に占める神戸市民の入院患者の割合を支援します。

(2) 運営費

社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部兵庫県済生会が負担します。ただし、三田市は、救急医療や周産期医療などの政策医療等について、社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部兵庫県済生会に対する指定管理料として負担します。神戸市は、救急医療及び周産期医療に係る収支不足額相当額を対象に、前年の入院患者数に占める神戸市民の入院患者の割合を社会福祉法人^{恩賜財団}済生会支部兵庫県済生会に対して支援します。

10. 新三田市民病院までの交通アクセス

新三田市民病院までの距離が遠くなる方に配慮して、新病院までの交通アクセスの利便性を向上させるための対応策を検討していきます。

11. 現三田市民病院の跡地活用

現三田市民病院の跡地には、回復期医療等を担う民間医療機関の誘致を目指します。また、現三田市民病院の敷地面積は広大であるため、その他の有効な活用方法についても検討します。

12. 今後のスケジュール

令和4年度～6年度	新病院用地調査・用地確保、基本構想・基本計画策定
令和7年度～	設計・工事
令和10年度	新病院開院

13. 新三田市民病院開院までの課題

新病院の開院予定時期は令和10年度を予定していますが、依然として、人口減少や少子高齢化の急速な進展に伴う医療需要の変化など、経営環境の急激な変化等を背景とする厳しい状況が続いていくことから、それまでの間においても、両病院の診療機能を維持するとともに、新病院の円滑な運営に向けた準備を進めていく必要があります。

また、令和6年度には医師の働き方改革が本格的に開始されるため、両病院でその対応策についても、早急に検討を進めていきます。